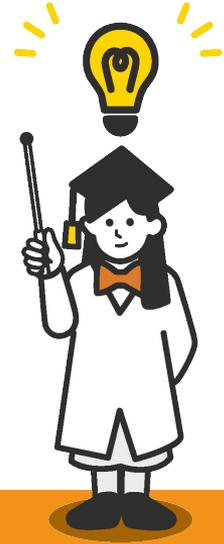




TOKYO METROPOLIS

学びのアップデート 32

Learning Updates



Contents menu

- 01 みんなでアプリ作ろうキャンペーン第3弾「モバイルアプリコンテスト2025」実施報告
- 02 「都立学校オンライン学習デー」の取組紹介（都立中央ろう学校）

都内の中高生を対象としたイベント、みんなでアプリ作ろうキャンペーン第3弾「モバイルアプリコンテスト2025」の表彰式が令和8年1月18日に実施されました。

今年度は、「**生成AI等を活用しながら、単なる効率化ではなく、これまでにない体験や価値を創出すること**」が大きなテーマでした。



画像をクリックすると結果発表ページにアクセスできます

審査員紹介



PC編集統括部 統括部長
鈴木 光太郎
株式会社インプレス



エンジニア
千代田 まどか
Microsoft



タレント/エンジニア
池澤 あやか
東宝芸能株式会社

審査委員長 鈴木 光太郎 様 総評

- 昨年に比べて全体のレベルが向上しており、特に**生成AIの活用や技術力の高まり**が強く感じられました。
- 金賞作品は、アイデアを具現化するだけでなく、**最後の仕上げまで徹底してブラッシュアップ**されていました。

応募総数47点、入賞作品12点のうち、公立学校に在籍する生徒が作成した3点のアプリについて紹介します。





まずは金賞の一部を紹介します。
金賞受賞、おめでとうございます！



アプリアイコンをクリックすると
アプリの紹介動画を見ることができます

金賞



SenseMap

学校名

東京都立田無高等学校

チーム名

田無高校SenseMap開発チーム (たなしこうこうせんすまっぷかいはいつチーム)

開発者名

木村 凧希 / 濱本 齋

アプリ名

SenseMap (せんすまっぷ)

開発のポイント

CursorAIのAutoModeでJetpack Compose UIやFirebase統合コードを生成し、バグ修正・リファクタリング・レスポンス対応を支援したほか、複数モデルを活用し開発効率を向上させています。



【評価ポイント】

- ・「五感を共有する」という独自の切り口が非常に印象的でした。
- ・斬新なアイデアを確実に形にする高い実装力とユーザーが直感的に扱える優れた操作性を実現していました。
(株式会社インプレス PC編集統括部 統括部長 鈴木 光太郎)





次に銀賞と銅賞の一部を紹介します。おめでとうございます！
その他の受賞作品や応募作品は、[結果紹介ページ](#)をご覧ください。



アプリアイコンをクリックすると
アプリの紹介動画を見ることができます

銀賞

学校名

小平市立小平第四中学校

開発者名

横田 和樹

アプリ名

Hello coin (はろーこいん)

開発のポイント

内部コードの基盤部分を
生成AI (ChatGPT) により作成
し、開発効率を高めています。



Hello coin

銅賞

学校名

東京都立鷺宮高等学校

チーム名

奥珠璃乃芽種音
(おくすりのめたね)

開発者名

江口 俊作 / 桑原 さくら
小玉 雪菜 / 渡邊 湊仁

アプリ名

おくすりメモ

開発のポイント

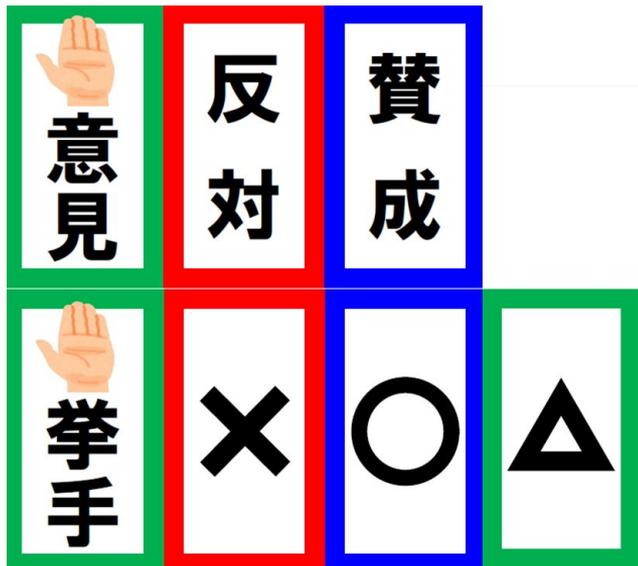
スクリーンショットの修正案や新しい機能の参考アイデアを生成AIに相談した。



おくすりメモ

都立学校では、子供や教員が学校に来ることができない状況に備え、オンライン学習を行うスキルを維持し、高めていく点から、教員・児童生徒の双方が非常時にオンライン学習を円滑に実施できるように平時において訓練を実施することを目的とし、年に1回、「オンライン学習デー」を実施しています。

今回は、都立中央ろう学校の取組を紹介します。



オンライン用意思表示カード（一部）



挙手カードを使用しているイメージ



賛成・反対カードを使用しているイメージ

こちらはオンライン学習時に意思を表示するために作成・配布をしていましたが、普段の授業でも意思表示に使用する生徒がいます。このような取組は、校種問わず参考になるのではないのでしょうか。

こちらは、高等部の数学の授業の様子です。
また、ろう学校の設備の中で、特徴的なものを
一部紹介します。

板書、手話、発話（モニター
表示）を駆使して授業を実施



発話した内容がモニターに映し出されるアプリを活用
(WEB会議アプリでも代用可能)

- 教師は、大画面モニターで生徒の様子を確認
- 生徒は、教師の板書、手話、モニターに映る発話内容を画面越しに見ながら授業を受ける



ランプの色で時間（チャイム）を知らせる設備

難聴やことばの教室等に通う児童・生徒への支援策として、
中央ろう学校の取組を参考にしてください。



学習指導要領に示されている資質・能力を育むには、指導方法、学習方法、学習環境等を更新し、最新のものにする必要があります。

また、Society5.0に向けて、ICT機器及び環境というハード面と、それらをどう利用していくか、授業そのものをどのように構成するかというソフト面の両方のアップデートが求められています。

そこで、これからの「学び」を最新のものに「アップデート」していただくことを願い、本通信のタイトルを『学びのアップデート』としました。東京都教育委員会のホームページにも掲載する予定です。

学びのアップデート

Society5.0に向けた一人1台端末の活用のための実践事例通信
第32号 令和8年2月17日発行 東京都教育庁総務部デジタル推進課